

親の影響力

合格する生徒、成績が伸びる生徒に大きな影響を与えるのは親です。だいぶ前に、塾にも通わずに久留米大学附設中学に合格した小学生の話、小学生を持つ母親たちがされてました。久留米附設の近くにある我々久留米自習室では、塾に通わずに、自習だけで合格している生徒たちがいます。まさに、学校と親の力だけで、子供はいくらでも成長できます。どういう育てられ方をした子供であるかが重要です。

九州大学医学部に合格した附設高校卒の浪人生の生徒に、「親からどういう教育を受けているの？」と色々聞いた事があります。私の教室に通っている生徒たちには興味がつきません。その子は『親よりも凄い大人がいたら、ついて行きなさい』と言われている」と言った言葉が印象的でした。放任に見えますが、実は彼の母親からはよく電話がかかってきておりましたので、同時に過保護な親でもありました。

まず、一つ目に「ほどほどに放任で、ほどほどに過保護」が正解だと考えます。なかなか成長しない子供を見ていますと、放任しすぎたり、過保護すぎたりします。そういう極端な育て方が子供を壊してしまいます。「放任や過保護はダメ！」と、極端な事を言われる人もおられますが、「ほどほどなら良い」そう思います。

次に「親を絶対化しない」というのが大事ですね。私は何度も「学校大事」という事を言っているのに気づかれると思います。塾や予備校がよく「学校はダメ。学校を休んででも、こっちに来なさい」と言います。それによって、子供たちが学校不信になると言いますか、学校に行っても身に入らない状態になります。学校に登校してから下校するまで、学校の先生の授業などが頭に入らなくなるわけです。なぜなら、塾や予備校が「学校の授業は悪いものだ」と言うからです。ところが、これをやってしまう親もいます。「親のいう事が絶対」と言い続けるので、学校はもちろん、塾や予備校に行っても、授業が身に入りません。なぜなら、「親以外の大人の言う事にはついてはいけな」と言われているからです。もちろん、そんな直接的な言い方はされませんが、子供はそう受け取っています。

最後に、「叱られて、やる気を無くして勉強しなくなる」と「ほめられて、慢心して勉強しなくなる」の二つですね。後者は、最近「おかしい！」と指摘されている「ほめて伸ばす」というものですが、いくら注意しても勉強しない生徒がいます。なぜかと問うと、私から習って、成績が上がったから「親からも、学校の先生からもほめられている。だから、もう勉強する必要はありません！」と言う子供たちです。成績が上がった事は、ほめていいと思いますが、勉強していない姿が見られたら注意するべきです。そして、「叱られて、やる気を無くして勉強しなくなる」ですが、成績が上がってもほめられないのですね。「お母さん70点取れたよ！」「なぜ、それだけしかとれないの？」「お母さん80点取れたよ！」「20点も失点しているじゃない？」「お母さん90点取れたよ」「なぜ、満点取れないの！！」そう言われ続けている子は、やる気を失います。これは、実際に私が指導したある生徒の親子のやり取りでした。努力を続けていて、更に結果まで出している子供は認めてあげても良いのではないかと考えます。大変ですが、親御さんを応援しています！